



特定非営利活動法人

ジャパンハート

発行所 特定非営利活動法人 ジャパンハート
〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6
セントオフィス秋葉原 10 階
電話番号 03-6240-1564 FAX 03-5818-1610
URL <http://www.japanheart.org/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



photo ©Fuji Salmon



photo © Ruriko Taguchi



photo © Ruriko Taguchi

Japan Heart 2010

年次報告書

2010.4.1～2011.3.31



一度しかない人生だから、 たくさんの未来を救いたい。

海外で子どもたちに医療をしていると、よく思うことがある。もしも私がここにいなかったならば、この子たちは一体、どうなっていたのだろうか？

もう何年前になるだろうか？ 10才くらいの少女が、お腹に激痛を訴え、親と共に来院した。検査の結果、総胆管という肝臓から出たところの管に、石が詰まり、急性の膵炎を起こしていた。その状態が、数日続いており、子どもは衰弱していた。どうしてもこの石を取り除かなければならない。しかし、数時間に及ぶ手術をするには人員不足と麻酔の機器が安全性を欠いていた。私は、父親と母親を前にして次のように言った。「もし、手術してこの完全に詰まってしまった石を取り除かなければ、近い将来、この子は死ぬことになる。私たちは、この子に手術をしてあげたいが麻酔の道具がどうしても不十分でここで手術することはかなりの危険を伴う。だから、大都市の大きな病院まで行き、手術を受けた方がいい。」

すると父親は静かに微笑みながらこう言ったのだ。『私たち親子には、お金がありません。ここで手術してもらえないならば、娘はうちに連れて帰り、死ぬしかありません。』



私は、まともな覚悟を決めなければならなくなかった。5時間に及ぶ手術は結果、上手くいき、この親子は笑顔で帰っていった。

その昔の日本でもそうであつたろうし、今でも世界のどこかで同じことが起きている。一体、どれほど多くの子どもたちが苦しみ、どれほど多くの親たちが涙を流したことだろうか？

そのうちのたった一人の子どもの人生を思っただけでここは涙で満たされてしまう。そして、いつも思うのだ。日本の昔にタイムスリップして、多くの子どもたちを救いたい。

タイムスリップしたい、本当に。叶わぬ夢だけど。

だからせめて、今この時代に同じような運命を背負っているミャンマーやカンボジアの子どもたちのために、やらせてもらっている。同じ日本人としてやっぱり日本人の子どもたちを救いたい。それは確かな、私の欲求である。

人の人生は本当にはかないから、私のこの人生を、いつもいつも、こころが咽ぶような多くの喜びで埋め尽くしたい。一面の草原が、きれいな花で埋め尽くされているような人生を生きてみたい。

一度しかない人生だから、私も、ジャパンハートのスタッフたちも、そして今これを読んでいる皆さんも、その方がいいに決まっている。

2011年は日本にとって大きな意味を持つ年になる。「東北」というキーワードで、日本の歴史がひとつの時代の幕を閉じる。

今、時代は終焉を迎える。

特定非営利活動法人
ジャパンハート代表

吾岡秀人



photo ©Fujio Salmon



『協力』と『団結』が復興への大きな第一歩

プロジェクトリーダー
看護師 長谷川 彩未

2011年3月11日。未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生。全国から医師・看護師、一般ボランティアを募り、ジャパンハートとしては国内初の医療救援活動を行いました。

全国から駆けつけてくれたボランティアの皆さんと

震災直後、3月17日より先遣隊として医師1名、看護師3名を現地に派遣しました。当時は、東北道路が通行禁止であったため、まずは空路で山形県へ。数日間は山形県を拠点に宮城県全域を調査、その後、仙台に事務所を構えて本格的に活動をスタートさせました。

3月21日には1カ所目の活動地として、宮城県本吉郡南三陸町戸倉が決定。すぐにWebサイトやメーリングリストなどで協力者を呼びかけたところ、医療者の応募は1週間で100名近くに。全国に協力したい医療者がこんなにたくさんいるのだと驚くと同時に大きなエネルギーを感じました。また、ドライバーボランティアの協力により、医療者や医療物資を載せた車が、連日東京から被災地に向けて出発

ることができました。その後も宮城県気仙沼市本吉町、石巻市雄勝町・桃生町・渡波・広瀬字町、登米市米山町と活動地を拡大させ、最終的には計7カ所の活動地に約450名以上の医師・看護師・一般ボランティアを派遣し診療活動ができました（2011年6月現在）。

ジャパンハートでは国内初の医療救援活動であり、物資の調達や現場との連絡体制など多くの課題もありましたが、皆さまの協力をいただいていた現場のニーズに合わせた支援を行うことができました。心より感謝を申し上げます。



photo © Ruriko Taguchi
戸倉地区「志津川自然の家」



photo © Ruriko Taguchi
石巻地区「大須小学校」



photo © Takashi Wata
戸倉地区「志津川自然の家」

活動エリア



photo © Ruriko Taguchi
(上) 石巻地区 (下) 戸倉地区

渡波地区での小児科診療所

石巻市渡波地区は、津波により海岸部の工場から重油と泥が流れ、多くの家屋が被害を受けました。しかし、2階部分が残っている家が多いため自宅避難者が多く、子どもの姿をよく見かけました。ところが、地元の小児科クリニックは4軒のうち3軒が被災、再開の目処が立たない上、車が流れ近隣の病院にも行けない子どもが数多くいました。

そこで、ジャパンハートは、地元の小児科クリニックが再開するまでこの地域の小児科医療を支えようと「ジャパンハート災害支援医療センター」を設置。2階建てのプレハブをきれいに掃除し、小児科を主とした診療を開始しました。

1日60人程の患者さんが訪れ、その内3分の1は子どもという日もありました。今後も子どもたちが少しでも安心して暮らせるように、町の復興を応援し続けます。



photo © Ruriko Taguchi

赤いジャンパーは信頼の証

「ジャパンハートさんがいてくれると安心する。一番大変な時助けてもらったから」「赤いジャンパー見るだけで元気が出るな」「ジャパンハートさんはみんな家族だと思ってっから」と被災地の皆さんから温かい声をかけていただきながら、支援活動をしてきました。朝は「いってらっしゃい」帰りは「お帰り。お疲れさん」と皆さんからかけていただく声が私たちの活動の励みにもなりました。



photo © Ruriko Taguchi

道が全て津波と土砂崩れにより塞がれ「陸の孤島」となっていた大須の避難所。診療開始日には被災者の方の列が100人にもなりました。



子どもたちを笑顔にしたいから 『夢』と『希望』と『安心』を

プロジェクトリーダー
看護師 河野 朋子

2010年度は、今までの活動に加えて「Dream Train (ドリームトレイン)」と「ミャンマー視覚障害者自立支援事業」の2つの新たなプロジェクトがスタート。ミャンマー国内での活動の幅がさらに広がりました。

ザガイン・ワッチェ慈善病院医療活動

ジャパンハートは2004年の団体設立時から、ザガイン・ワッチェ慈善病院で活動しています。患者さんの数は年々増加傾向にあり、2010年度は7,747名の診察とともに、1,371件の手術を実施しました。18歳以下の子どもに対しては手術費用・薬代・入院費・食費・交通費なども完全無料にしています。2010年度は各種の病気に苦しんできた476名の子どもたちが治療・手術を受け、元気に笑顔で退院していきま

した。また2008年より育成してきた現地のミャンマー人看護師たちの成長も著しく、現在では5名のミャンマー人看護師が日本人医療者と共に活動しています。確かな技術と高い精神性を持った彼女たちに患者さんからの評価・信頼も非常に高く、「この病院にただで病気の半分は治ったような気がする」という言葉もあがっています。



甘えん坊でおしゃべりが大好きなティンダウン



家族みんなで病院に泊まるため、病室はつねににぎやか

Dream Train (ドリームトレイン)

2010年11月19日、ミャンマーの最大都市であるヤンゴンに28人の子どもを迎え、養育施設「Dream Train」をスタートさせました。

子どもたちの大半はヤンゴンから遠く離れたミャンマー北東部、タイとの国境に近いチャイントンの出身。この地域では出稼ぎによるエイズの蔓延、それによる孤児の増加、子どもたちに忍び寄る人身売買や売春の魔の手が大きな問題となっています。ミャンマーの将来を担っていく子どもたちの夢を乗せて走る列車をイメージして名付けられた「Dream Train」は、子どもたちをエイズから守り、安全で安心して暮らせる環境の下で保護し、子どもたちの自立をサポートすることを目的としています。また、12月20日には新たに28名の子どもたちを受け入れ、12月24日にはオープニングセレモニーも盛大に開催されました。大半の子どもたちが少数民族の出身のため、開設当初はミャンマー語が通じず、スタッフも通訳を介しながら子どもたちとコミュニケーションをとるという、多民族国家であるミャンマーらしい光景が広がっていました。今ではミャンマー語も流暢となり、新しい仲間が加わると多くの子どもたちが通訳として活躍してくれています。

多くの子どもは家庭が貧しく兄弟も多いため、お腹いっぱいご飯を食べることすら難しい状況にありました。今では毎日、3度の食事をお腹いっぱい食

べ、日を追う毎に顔がふっくら丸くなりました。喜ばしいことではありますが、「このままでは子どもたちが肥満になってしまう」とスタッフが心配し、毎朝起床後に全員でエクササイズをしています。また、2011年3月より近隣の学校にも通い始めました。新たな友達も出来、覚えたミャンマー語で楽しく会話しています。

日本人のお客様の訪問も多く、子どもたちは興味津々。「コンニチハ」「アリガトウゴザイマス」「イタダキマス」など簡単な挨拶はすでにマスター済み。日本からいつも温かいご支援をいただいている皆さま、ぜひ「Dream Train」にお越しください。皆さまとお会いできる日を元気いっぱい子どもたちと一緒に、首を長くしてお待ちしています。



「コンニチハ。いっしょにあそぼう!」

寺子屋における保健・衛生教育活動



2008年度から継続的に実施してきた寺子屋における保健・衛生教育活動は、寺子屋の教師や学生との信頼関係も確立し、保健衛生教育の必要性や意義が広く理解され始めています。子どものうちから正しい衛生観念や病気の予防に関する知識を身につけることが、ミャンマーの未来にとってもプラスになると考えています。

視覚障害者の自立支援活動

2010年5月に外務省の「日本N G O連携無償資金協力基金」を受け、ヤンゴン市内に「Myanmar Medical Massage Training Center for the visual impaired(ミャンマー視覚障害者医療マッサージトレーニングセンター)」をスタートさせました。視覚障害者に医療マッサージの専門指導を行い、医療マッサージの専門家として一般社会への進出を目指しています。2010年度は全国の盲学校から集まった12名が、2年間の教育カリキュラムの1年目を無事終了しました。

サイクロン被災地の子ども教育支援活動

2008年のサイクロン「ナル吉斯」災害から約3年の月日が経過しました。ジャパンハートがサポートしてきた災害で親を亡くした子どもたち50名を取り巻く環境も変化してきています。各家庭では必要最低限の生活費は何とか維持できるようになってきていますが、家族の病気・子どもの進学などに対応できるだけの余力がないのが現状です。2010年度からは、生活をサポートするとともに、子どもたちの災害後のトラウマに対しても専門家を招きケアにあたっています。



貧しい人々に医療をうける機会を

プロジェクトリーダー 看護師 松島 麻理絵

「医療の届かないところに医療を届ける」。ジャパンハートの理念を抱いてカンボジアでも支援を行っています。

医療活動

日本から参加のボランティア医師・看護師とともに、2カ月に一回、移動診療と手術を行っています。

移動診療は簡単な診療や出産などを扱っている施設「ヘルスセンター」に行き、日頃、病院には行けない田舎に住む患者さんを無料診療しています。中には何十年と病院にかかっていないという患者さんもおいて「先生に診てもらえて安心した」と喜ばれています。

手術は昨年より68件多い188件を実施し、新たにチューンプレイ病院での支援活動もスタートさせました。チューンプレイ病院は20万人が住む地域の中心病院でありながら、施設や器具などもなく、手術

経験のある医師も1名しかいませんでした。そこで、最低限の手術ができるよう、改修工事を行い、環境を整備。2011年2月には初めての手術をカンボジア人医師とともに行うことができました。カンボジア人医師へのトレーニング、システム作りなど、課題は多くありますが、多くの人たちが医療を受けられるよう、今後ともこの病院の支援に力を入れていきます。



奨学金制度

医学生と看護学生のための奨学金制度を設けています。2010年度は田舎の貧しい子どもの中から2名選びました。金銭的なサポートにとどまらず、ジャパンハートの活動を通して、患者さんへの姿勢、医療の技術、経験を積んでほしいと願いつつ育成しています。

保健活動

中高一貫の学校で、交通事故、火傷、骨折、出血等の外傷に対する応急処置の方法を指導し、小学校では性教育などを実施しました。また、医療者には救命に有効な心肺蘇生を指導し、技術の水準を高める活動をしています。



多くの患者さんが集まる移動診療



病気とたたかう子どもと家族の応援団

プロジェクトリーダー 医師 石田 志織

疾病のため移動に不安のある小児がんの子どもや家族に対して、旅行や思い出作りを医師・看護師がサポート。家族とのかけがえのない時間が、病気とたたかうエネルギーへ。そんな願いを込めたプロジェクトです。

事例① 今度は僕が誰かの役に立ちたい

A君は11歳の野球が大好きな元気な男の子。体調がすぐれないと思っていたら、突然の病気の発覚、緊急入院。そして、つらい治療が始まりました。「元気になったら必ず阪神戦を観に行く」そんな思いが彼の半年間の治療を支えました。阪神タイガース様の温かいご協力によって家族と一緒に試合を観戦、大ファンだった金本選手にも会うことができました。

「たくさんの人に大切にしてもらった。

今度は僕が誰かの役に立てようになりたい。」そう満面の笑顔で語ってくれたA君は再発の恐怖と闘いながらも、中学生になって野球部に入部し、元気に野球をしています。



大好きな選手との対面が素敵な思い出に

事例② 楽しい思い出が、心と体に奇跡を

B子さんは再発を繰り返し、入院生活が長い16歳の女の子。家族でユニバーサルスタジオジャパンに行きたいと依頼してくれました。一人で歩くこともままならないかなり厳しい状況でしたが、主治医、担当看護師の協力のもと、最大限の注意を払いながら企画を実行しました。当日は、我々の心配をよそに終始笑顔のB子さん。車椅子から乗物まで歩いて移動し、後日の検査では、どんな薬でも減らなかった胸の水が少なくなったと主治医が驚く結果も。

以来、嫌がっていた薬も進んで飲むようになったとご家族から嬉しい知らせも届きました。



スタッフの心のこもった手作りアルバム

カンボジアの女の子たちも笑顔に！

新日本製薬株式会社様のご支援を受け、カンボジア人の女の子、ソカちゃん(13)とスライミンちゃん(15)とお母さんたちを日本へ招待しました。甲状腺癌を抱えるソカちゃんと、小さい頃ポリオに罹って今も右足を引きづりながら歩いているスライミンちゃん。滞在中は「日本の学校を見たい」「日本の女の子とお話してみたい」との願いから福岡市の中学校を訪問したくさんの友達ができました。





photo ©Fujio Saimon

学び・救い、たくさんの経験が自分を成長させる

プロジェクトリーダー
看護師 武内 三恵

2010年度より、「国際長期研修（看護師）」をメインに、「国際ボランティア（医師）」「国際短期ボランティア（医療者・一般）」を統括する事業がスタート。語学力、経験、年齢を問わず、ご自分の状況に合わせて国際医療に参加いただけるプログラムを組んでいます。

国際長期研修（看護師）

当研修の最大の特徴は、臨床医療を行っていることです。将来看護師が1人で国際的な緊急医療、あるいは途上国での地域医療において、技術的にも、経験知でも十分対応できる臨床看護能力を獲得することを目指しています。

活動地は海外だけでなく国内僻地離島（山梨市立牧丘病院・長崎県上五島病院・隠岐島前病院）にもあります。アクセスが悪く、情報や医師の数も限られている僻地・離島では、看護師はもちろん、技師、薬剤師、理学療法士などのコメディカルは自立した高い能力を持っていることが多く、学べる機会も数

多くあります。また、文化・慣習が異なる地域で生活をしながら、医療者として、住民として関わっていくことで、患者さんを生活背景含めて看ることができます。

ジャパンハートの活動理念である「医療の届かないところに医療を届ける」ために、無償で活動し「心・技・体」の成長を目指しています。

2010年度は23名の看護師が参加しました。今後、より多くの看護師が参加できるよう、プログラムの強化を図っていきます。



手術前の診療風景（ミャンマー）



村の巡回診療（カンボジア）

国際長期研修（看護師）を終えて

ジャパンハート研修生 高橋周子（33歳）

ミャンマーでの3カ月は、厳しい生活の中でストイックに自分と患者さんと向き合い、苦戦し、消化不良のままで帰国しました。カンボジアでは、ミャンマーでの消化不良を少しずつ改善しながら、新しい見方や考え方を学びました。2つの違う国での活動を経験できたことはとてもプラスになりました。

研修生といえども、現地ではプロジェクトを成功させるために、皆で知恵を絞り、意見を出し合い、良いものを作ろうと必死でした。自分のためだけに

なく、周りのスタッフ、関わる全ての人、そして、未来のこれから出会う人のために。また、看護師は看護だけでなくもっと色々なことができていいんだと思うこともできました。経営、営業、教育、実践看護等、実際にジャパンハートの看護師は様々な仕事に対応しています。私はまだ自分のやりたいことがはっきりとわかりませんが、これからも色々なことを経験して、自分が進むべき道を模索していきます。

国際ボランティア（医師）

若手からシニアまで幅広い年齢層の医師を受け入れています。これまで参加期間を年単位としていましたが、2010年度からは、月単位で参加できるスキームを設けました。これにより、海外ボランティアへの敷居が下がり、多くの日本人医療者の参加機会が拡大しました。また外科手術だけでなく、巡回診療も実施しており、内科や小児科、皮膚科など幅広い分野の医師が参加しやすくなりました。



photo ©Fujio Saimon

国際短期ボランティア（医療者・一般）



医療者はもちろん、一般の方、学生さんも、ぜひ活動地に来ていただきたいと門戸を開放しています。日本からの移動日を含め、3日～1週間の休暇があれば、参加が可能です。

2010年度は、医師44名・看護師25名、その他医療者2名、学生7名、一般7名、スタディツアー33名とさまざまな職種、幅広い年齢層の皆さんにご参加いただきました。

活動環境

スタッフは患者さんと同じ生活環境で

海外の活動地は、ミャンマー・カンボジアの2カ国です。

ミャンマーでは医師・看護師が村に常駐し、現地人スタッフと共同生活しながら医療活動しています。活動は寺が所持する病院の一部を間借りし、主に外来診療、外科手術、病棟管理を実施しています。カンボジアでは医師は常駐せず、看護師が事業の全てをマネジメントしています。普段は首都プノンペンで生活しながら、医療活動・保健活動の準備、調整をし、実施時には村に出向いて、

巡回診療、外科手術、病棟管理を行います。

どちらの国もインフラが不安定で、物資なども限られている環境の中、患者さんと同じ生活環境で医療に携わります。シンプルな環境だからこそ、気づくことも多くあります。



photo ©Fujio Saimon

2010年度 収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

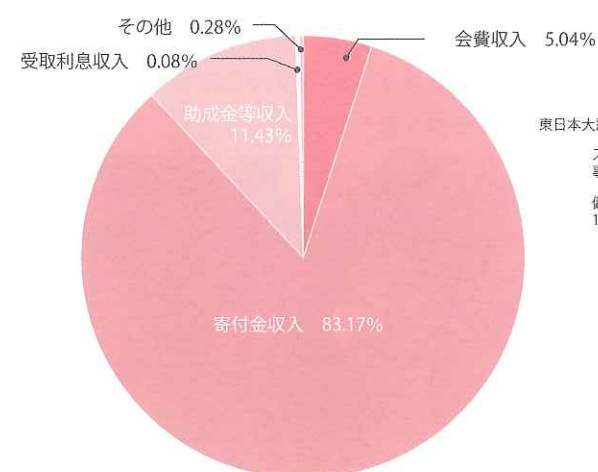
[単位:円]

科 目	決 算 額	前年度決算額
I. 経常収入の部		
1. 会費収入	6,124,000	6,008,000
2. 寄付金収入	101,088,667	64,558,773
3. 助成金等収入	13,894,051	
4. 受取利息収入	102,027	37,376
当期経常収入合計	121,208,745	70,604,149

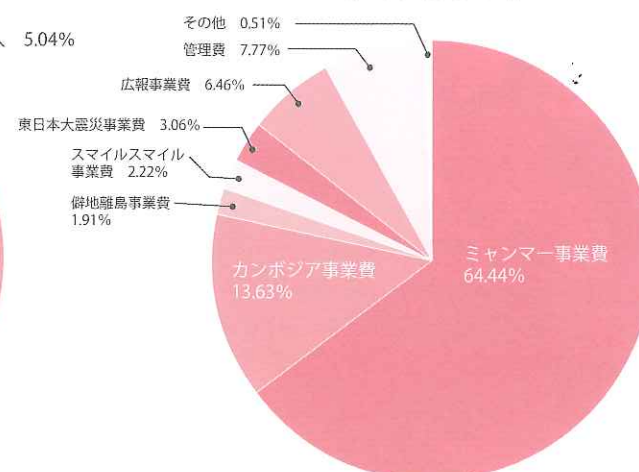
II. 経常支出の部		
1. 事業費	110,423,079	25,929,557
(1) ミャンマー事業費	77,576,686	14,482,143
(2) カンボジア事業費	16,412,744	8,986,521
(3) 僻地離島事業費	2,298,043	1,518,259
(4) スマイルスマイル事業費	2,677,423	942,634
(5) 東日本大震災事業費	3,680,177	
(6) 広報事業費	7,778,006	
2. 管理費	9,348,788	11,482,620
当期経常支出合計	119,771,867	37,412,177
当期経常収支差額	1,436,878	33,191,972

III. その他資金収支の部		
1. その他資金収入	340,000	
2. その他資金支出	609,220	7,707,742
当期収支差額	1,167,658	25,484,230
前期繰越収支差額	121,020,260	95,536,030
次期繰越収支差額	122,187,918	121,020,260

[収入内訳]



[支出内訳]



2010年度はテレビ、新聞、雑誌に取り上げられ、たくさんの新しい出会いがありました。テレビ番組「情熱大陸」の放映後は、事務所の電話が鳴りやまない程。団体の概要以外にも、新規にスタートしたミャンマープロジェクト「DreamTrain (ドリームトレイン)」への反響も大きく、より多くの方にジャパンハートを知っていただく好機となりました。また、代表の吉岡を始め、医師・看護師による講演会も30回程開催され、医療者だけでなく、幅広い世代、職種の皆さんから支援をいただくきっかけになりました。さらに、リニューアルしたWebサイトでは、東日本大震災での救援活動ブログを更新、被災地の現状などをタイムリーに伝えることができました。そして、全国の皆さまからの支援金・物資の提供、ボランティアの参加へと繋がりました。

1. 講演会

代表 吉岡秀人

テーマ「国際医療貢献の勧め～ミャンマーでの医療支援の経過を通じて～」

テーマ「こころ救われる医療を求めて～日本の力を集める～」等

医師・看護師も多数各地で講演

2. テレビ放送

テレビ東京「世界を変える100人の日本人！」(2010年9月)

MBS・TBS系列「情熱大陸」(2011年1月)

宮城テレビ「東日本大震災 救援活動に関するニュース」(2011年3月)等

3. 新聞・雑誌掲載

新聞

大分合同新聞朝刊「ミャンマーで無償無給医療活動」(2010年6月)

大分合同新聞朝刊「心救われる医療を」(2011年2月)

東京新聞朝刊「東日本大震災ボランティア活動について」(2011年3月)

ニューヨークタイムズWebサイト「東日本大震災 救援活動中の写真が掲載」(2011年3月)等

雑誌

「心に響くあの人のことば」学研(2010年10月) 教育情報誌「ドリームナビ」四谷大塚(2010年11月)等



講演会の様子

最新の情報はWebサイトで

ジャパンハート

検索

<http://www.japanheart.org/>

ジャパンハートの“すべて”を紹介しています。
イベント、研修、ボランティアの告知など
最新情報はTOPICSをチェック。

メールマガジンを定期配信中

プロジェクトの最新情報を定期配信(月2回)
Webサイトからご登録ください。

タイムリーにブログで活動報告中

ジャパンハートと各ブログのタイトルを入れて検索してください。

代表 吉岡秀人の活動ブログ

発展途上国の子供を救え!
小児外科医 吉岡秀人の戦い

ミャンマー「未来に向かって」

「未来に向かって」
ミャンマー視覚障害者医療マラソン
トレーニングセンターの日常の記録

カンボジアブログ

カンボジアブログ

ドリームトレインブログ

Dream Train blog
ドリームトレインブログ

海を越える看護団ブログ minmin 便り

海を越える看護団
～minmin便り～

東日本大震災救援ブログ

東日本大震災
救援ブログ

ナース彩未のNPO運営奮闘記

Nurse Ise's NPO
運営奮闘記

書籍のご案内



『飛べない鳥たちへ』

無償無給の国際医療ボランティア
「ジャパンハート」の挑戦
吉岡秀人の生立ち、天命を受け
てからの生き様を描き、また若
い人への挑戦状!

2009年発行(風媒社/¥1,500+税)



『死にゆく子どもを救え』

～途上国医療現場の日記～

溢れ出した命への思い、
つづやきを綴ったエッセイ。

2009年発行
(富山房インターナショナル/¥1,300+税)

私たちの活動に参加しませんか？

ジャパンハートでは、さまざまな形で活動へ参加していただける方を募集しています。

会員として参加

賛助会員・正会員（医療従事者・一般・学生・法人会員）として、私たちの活動をサポートしてください。

○会員の特典

1. 活動地の見学・ボランティア・各研修参加
2. 年次報告書（年1回）、メールマガジン（月2回）等の講読
3. 総会への出席（正会員のみ）
4. 当団体のWebサイト上の国際人道支援賛同企業への掲載、法人会員の企業パンフレット
その他印刷物等に、当団体のロゴの記載が可能（法人会員のみ）

年会費

	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000 円	18,000 円
一般	10,000 円	10,000 円
学生	10,000 円	6,000 円
法人会員	100,000 円	60,000 円

2011年5月より改定

お申し込み方法

会員登録用紙を郵送・FAX・メールにて東京事務局へお送りください。
（用紙はWebサイトからダウンロード、または事務局へご請求ください）
到着確認後、メールもしくは電話で、振込方法をご案内します。

寄付・募金で参加

寄付金、募金は現地での薬品・医療具購入、活動費に使います。

簡単に手続きできるように2010年から、Webサイトでのオンライン決済が可能となりました。

振込口座

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート
口座番号 00910-3-166806
＜他の金融機関より振り込みの場合＞
銀行名：ゆうちょ銀行 預金種目：当座
金融機関コード：9900 店名：〇九九店
店番：099 口座番号：0166806

子どもたちも大活躍！

東日本大震災被災地区の子どもたちのこころを救済するために、秋葉原駅前募金活動を実施。たくさんのお子様もボランティアとして参加してくれました。

里親として参加

ミャンマーの養育施設「Dream Train(ドリームトレイン)」で暮らす子どもたちの養育は、里親制度を基盤としています。一人の里親に対して一人の子どもを紹介し、年に2回子どもの成長記録（写真・手紙）をお届けします。里子に会いに現地に行くことも可能です。まずは詳しい資料をご請求ください。



photo © Fujio Salmon

ボランティアとして参加

医療の知識・経験がない方でもどなたでもご参加いただけます（※海外の活動は会員のみ）。ミャンマーでは病院や養育施設「Dream Train(ドリームトレイン)」にて、日本ではスマイルスマイル事業や東京事務局にて皆さまの参加をお待ちしています。詳しくは東京事務局へお問い合わせください。

1. 国際短期ボランティア（ミャンマー）

○ザガイン・ワッチェ慈善病院

手術や診察に来る多くの患者さんであふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、ガーゼの作成、滅菌、医療器具の洗浄・滅菌手伝い、患者さんとの交流、および現地人スタッフへの日本語教育など多くの仕事を体験できます。

○Dream Train(ドリームトレイン)

養育施設「Dream Train」で生活する子どもたちの食事・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒に手伝ってください。一緒に遊んだり、勉強したりと言葉が通わずとも無邪気な子どもたちと交流が図れます。



ガーゼを作成中

2. スマイルスマイル事業で企画のサポート

企画から実行までの各種調整・当日の付き添い、しおりやアルバム作成などスタッフをサポートください。医師・看護師の方はもちろん、一般の方のご協力もお待ちしています。

3. 東京事務局での運営サポート

宛名書きやパソコン入力作業、資料請求の発送作業などを東京事務局でお手伝いください。現在活躍いただいているボランティアの皆さんは約50名。週に一回、不定期などで都合にあわせて参加していただけます。

東京事務局でのボランティアに参加しています。

■鈴木千春さん

スタッフが雑務に振り回されず、時間を有効に使えれば、ジャパンハートの活動がより充実し、数多くの人々の幸せに繋がると思い、応援しています。老若男女、バックグラウンドの違う人たちが集うのも楽しみです。



■宇田川裕一郎さん・エリ子さん

週に一度、PCの入力や発送作業のお手伝いをしています。東日本大震災の時には本吉の診療所に立ち寄り、現地活動の一端垣間見ることができました。国内外にわたる「医療の届かないところに医療を届ける」の活動に日本人としても誇りに思います。



問い合わせ
資料請求
送付先

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局

〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10 階

TEL: 03-6240-1564

FAX: 03-5818-1610

Email: japanheart@e-mail.jp

URL: <http://www.japanheart.org/>